『ブタに真珠の首飾り』

作・広田淳一

2018/08/15-

前提

◎ 表記について

・　――間を取らない読点。
★　――前の台詞の語尾に重ねて言う。いわゆる食い気味。
／　――間髪入れずに台詞の調子・方向性を切り替える。
＝　――語尾に「＝」が付き、続く行の語頭に「＝」が付く場合、間髪入れずに次の台詞が始まる。
　行をまたいで語頭に「＝」が付く場合、それらは一人の人物の連続した発話である。
「　――近くにある同数のこの記号と同時のタイミングで始まり、重なったまま発話される。
▲　――そでにはけながら言う。
▽　――言いながら登場する。
☆　――同じ数字の☆印を、同時に言う。

ト書きの「間」と「一拍」は、「一拍」の方が短い。
（このような）括弧内の文字は発話されない。
このような傍点付きの台詞は強調の意味。強調して発話するとは限らない。

◎ 劇作の前提

◇会話で書き切る。
◇従って独白はしない。
◇場所の移動は一度もしない。

◎ 演出の前提

◇台本に無い「被り」を増やしてもいい。入れるタイミングで入る。
◇台本に無い「合いの手」を増やしてもいい。

◎ 登場人物／出演者

亜矢（登場せず）　…決算式を上げる当人。新婦であり、子持ち。二八歳ぐらい。高校ではダンス部に所属していた。

斉藤美海　…亜矢のダンス部時代の同期。親友。既婚。居酒屋で社員として働いている。

児玉明日歌　…亜矢の従姉妹。プロダンサー目指している学生。美海の働く居酒屋でアルバイトをしている。二二歳。未婚。彼氏無し。

伊藤涼花　…ダンス部の亜矢の後輩。四大卒。東京在住。二七歳ぐらい。未婚。

結城琴水　…亜矢の後輩、涼花の後輩。ダンス部。バツイチ。再婚済み。子持ち。短大卒。地元住み。二六歳ぐらい。

一場　式のあとで

結婚式会場の待合室のような場所。新婦様 ご友人控室。
上手側にいくつかの椅子。舞台中央にローテーブルとソファ。
その上にシンプルで趣味の良い花瓶。
下手側にはカウンターテーブルがあって、その上にポット。カップ。お茶セットがある。
子供がけ用の椅子もある。

【1】○　結婚式のあとで　美海、明日歌

控室に美海と明日歌が入ってくる。

美海　あーあ、と。

美海、椅子に腰掛け、靴を脱ぐ。

美海　やっぱダメだね、慣れてないと。
明日歌　え？　ああ、足ですか？
美海　久しぶりにこんなヒール履いたからもうガクガクしちゃって。――（子鹿の動作をして）
大丈夫だったさっき？　生まれたての子鹿みたいになってなかった？
明日歌　や、なってませんよそんな。ええ、大丈夫ですか？
美海　ダメ。ツリそう。
明日歌　いやいや、まだ始まったばっかりですからね。長いですから、今日は。
美海　ねえ。このあと披露宴があってー、そんでそのあと二次会があんだもんね。
明日歌　そうですよ。
美海　しんど。――絶対ツルわこれ。
明日歌　ちゃんと今のうちに休んどいてくださいよ。
美海　ねえ。休足休足。

一拍。

明日歌　まあ、でも、すぐに披露宴はじまりますけどね、
美海　何時からだっけ？
明日歌　十二時半からです。
美海　ああ、じゃあ、ちょっとは時間あんのか――。
明日歌　もしツっちゃったら言ってくださいね。もう、全力で伸ばしますんで。
美海　筋を？（笑）

明日歌　はい。ガッツり伸ばしますんで。
美海　うんうん。お願いするわ。
明日歌　（お茶の瓶を見て）というか、これなんですか？
美海　見せてー。

見せる。

美海　ああ、桜茶じゃない。
明日歌　桜茶？
美海　縁起がいいんだよ。花開く、みたいな。
明日歌　へー、そうなんですねえ。
美海　そうそう。
明日歌　飲みます？
美海　（笑って）飲みたいんでしょ？

明日歌、お茶を淹れる。

美海　フフ。でも珍しいよね、あそこまで無宗教な感じっていうのも。
明日歌　ああ、そう、なんですかね？
美海　そうだよ。だってほら、普通は神父さんとかがやるわけでしょ？　ああいう誓いの言葉みたいなやつはさ。
明日歌　ああ、そっか。そうですよね。なんか片言でやってますもんね？　ドラマとかでよく。
美海　そうそうそう。「チカイノキスヲ？」って。ま、でも、ああいうの、ワザと片言にしてるらしいけどね＝
明日歌　＝ええ？＝
美海　＝ホントはベラベラに日本語しゃべれるらしいよ。
明日歌　あります、そんなこと？
美海　あるある。だってヤでしょ？　せっかく白人の神父さん呼んできてんのに、ガァガァ言ってたらさ？
明日歌　いや、ま、そうですけど――
美海　しゃべれるに決まってんじゃん。仕事にして日本に住んでんだからさ。
明日歌　ああ、そっか――。え、今日はでも、普通に司会の人がやってましたよね？
美海　人前式だからね。人の前の方だから。
明日歌　あれを、神父さんがやるんですもんね。そっかそっか。

一拍。

美海　というか、あれか？　明日歌の年だったらまだあんま無いか。そもそも、結婚式自体？

明日歌　ああ、はじめてです。あたし。
美海　（驚いて）あ、ホントに？＝
明日歌　はい。
美海　＝え、はじめてって、もう、完全に？
明日歌　はい。（淹れたお茶を運びつつ）もう親族とかでもはじめてだったんで、ホントに初めてで――。
美海　ありがとう。――じゃあ、初めてがこれで良かったよホント。いろいろあるからさ。微妙な時とか。
明日歌　そうなんですか？
美海　そりゃそうだよ。言うじゃん、新婚旅行とかで離婚しちゃったりとか。
明日歌　ああー。
美海　いろいろ試されるからね、
明日歌　人間性が？
美海　そうそう。まあ、今日だってまだ、ね。披露宴がどうなんのかはわかんないけどさ。
明日歌　やあ、でも大丈夫なんじゃないですか？　ふたりともしっかりしてますし。
美海　と、思うけどね、あたしも。

ふたり、お茶を飲む。

美海　まあ、でもよかったよね。ご主人がホントいい人で＝
明日歌　＝あ、ねえ。それはホントに。
美海　あれなんでしょ？　準備とかもほとんどご主人の方でやってくれてたっていう？
明日歌　ああ、なんかそうみたいですね。――亜矢ちゃんもなんかそんな感じのことを（言ってました）――
美海　ねえ。うらやましい。背も高いし。
明日歌　ハハ。そうですね。
美海　それに、ヨウちゃんもちゃんと空気読んでくれてたし。
明日歌　それはホントに。はい。そうですね。

間。

明日歌、急に改まって頭を下げ、

明日歌　ありがとうございました。美海さんにはホント、お世話になりっぱなしで。
美海　★いやいやいや、［辞めてよ、そんな。なに急に？
明日歌　［でも・でも、これはホントに・ホントに。――亜矢ちゃんもずっと言ってたんで。ヨウちゃんが生まれた時とかも、美海さん居なかったらどうなってたかわかんない、って。
美海　なんもしてないからあたしは。――むしろなんかねえ、いろいろ余計なこともたくさんいっちゃったし。

明日歌　だって、余計なこと言えないじゃないですか。あんな時。――誰も。何も。

一拍。

明日歌　だからホント、ありがとうございました。

美海　うん。――まあ。

一拍。

美海　え、そんで、どうするか決めたの？　明日歌は？

明日歌　え？　あたし？　あー、留学ですか？

美海　そうそう。グズグズしてるとタイミングなくなっちゃうよ。

明日歌　いや、まあ、そうなんですけど――。なんか止めようかなあ、と思って。

美海　ええ？　止めちゃうの？　なんで？

明日歌　いや、なんで、ってこともないんですけど。――え、ちょっと話してもいいですか？＝

美海　＝いいよ・いいよ。なに？

明日歌　いや、ホントあたしって勝手なやつだなーとか思っちゃって、そんでちょっと踏ん切り

　つかなくなっちゃって。

美海　なにが・なにが？

一拍。

明日歌　いや、なんかヨウちゃんが生まれてからずっと考えちゃってて＝

美海　ああ。

明日歌　＝ホントそんな、ニューヨークとかふざけたこといってる場合じゃないでしょ、とか思

　っちゃって。

美海　いや、ふざけてはないでしょ。

明日歌　ま、ふざけてはないんですけどね＝

美海　そうだよ。

明日歌　＝そりゃホントあたしだって本当にそういう、ちゃんと真剣な気持ちで言ってたし＝

美海　うん。

明日歌　＝いや、今もですけど、んー。いや、別にあたしが地元に残ってたら亜矢ちゃん手伝え

　るのか、っていったらなんもできないですし＝

美海　＝まあね。

明日歌　実際なんもしてないんですけど／それでもなんか、イザっていうときにはなんか手伝え

　るのかもしれないなァ、とか思っちゃって。

一拍。

美海　うーん。そうかあ。
明日歌　なんていうか、――うまく言えないんですけど、ホントあたしって自分のことしか考えてないなって思っちゃって＝
美海　＝気にしないでいいんじゃない？　若いんだし。
明日歌　★やー、だって自分がダンス勉強したいからニューヨークって、そりゃまあ、素直に、普通に考えてそうなっただけなんですけど＝
美海　うんうん。
明日歌　＝でも、そんなわがままって誰でも言えることじゃないし、そういう、親とかもそうですけど、周りの人とかの助けとかをなんていうか、勝手にアテにして？　それで自分だけやりたいことやってます、みたいな？　そういうのでいいのかなァ、って。
美海　いやいや、いいんだよ。［どうした・どうした？
明日歌　［そうですか？　や、だって、みんな考えてるじゃないですか？　ヨウちゃんとかが生まれて、いや、本当になんていうか、あたしは完全に頭が真っ白になっちゃって、フリーズしちゃってて――。
美海　うんうん。

一拍。

明日歌　全然、どうすればいいとか、なんもわかんなかったですし、でも、実際ちゃんと動けてる人たちはいるわけで、まあ、当たり前なのかもしれないですけど、でも、あたしはそういう、ちゃんと動けてる人たちに何も言えないな、っていうのがあって――。それってなんか、ホント無責任だなあ、と思っちゃって。
美海　んー、まあまあ。そういう気持ちはね。うん――。大事だとは思うけど。

美海、携帯端末をチェックして。

美海　ええ――。嘘でしょ。
明日歌　え、どうかしましたか？
美海　いや、えー、なんか――。

一拍。

美海　長谷川が熱出したって。
明日歌　ああ、長谷川さんが？
美海　そんで、代わりに来られないか、って。
明日歌　ええ？　どこにですか？
美海　や、会議、会議。

明日歌　会議ってそんな／え、だって美海さん今日休みですよね？
美海　うん、休みだよ＝
明日歌　ですよね。
美海　＝休みだけど、や、なんか、今日ね、本部の偉い人が来るからっていうんでさ、エリア全体でちょっと大事な会議があったんだけど、ええ――。

一拍。

明日歌　いやいや、無理でしょ、そんな。だって美海さん、これから披露宴ですし。
美海　まあ、そうそう。や、だから披露宴終わってからでいいからって――。
明日歌　ええ？　二次会は行かないでってことですか？
美海　まあ、そういうことになんのかな。
明日歌　無茶苦茶ですね。
美海　いや、まあ、普通に店長も困ってるんだろうとは思うけど、というか、ええ、長谷川――。
明日歌　や、長谷川ですよねホント。ええ――。
二人　長谷川。

一拍。

美海　や、ごめんごめん、なんか大事な話してたときに切っちゃって。
明日歌　いや、全然、いいんですけど、あたしの話なんか。
美海　その話はちょっと、あとでちゃんと聞かせてもらうとして、さ、
明日歌　いやいや、そんなもう、全然、どっちでもいい話なんで、
美海　ちょっと、一本電話入れてくるね会社に。
明日歌　はい。いや、もう、なんか。はい。行かないでいいと思いますけど、あたしは。
美海　ねえ。ちょっと話してくるわ。あの、すぐ戻ってくるから。
明日歌　はい。

美海、退場しかける。

明日歌　ああ、美海さん、あの、

明日歌、「がんばって」とポーズで伝える。

美海　うんうん、ありがとう。

美海、退場。

二場　披露宴の直前

【1】○　明日歌、ひとり。

舞台上、明日歌ひとり。
少し休む。

【2】○　琴水・涼花、登場。

と、入口の方から琴水と涼花の声が聞こえてくる。
明日歌、それに気づいて姿勢を正す。

▽涼花　いやいやいや、それ盛ってるでしょ、絶対。
▽琴水　盛ってない・盛ってないですって。「シャッターチャンスでーす」とかいってんのに誰も集まってこなくって、ヤバいんすよ、もう空気が＝
▽涼花　あー。
▽琴水　＝なんか、やっぱうちの姉ちゃんとかってめっちゃ地味キャラなんで、旦那さんもそんな感じの人で＝
▽涼花　はいはいはい。
▽琴水　＝だからもう、当然のように呼ばれてる人も全員めっちゃ地味なんすよ。地味キャラ博覧会みたくなってて。もう、あれっすよ、「じゃない方芸人」だけで集まって飲み会やって疲れ果てたみたいな状態なんで＝
▽涼花　＝ダメダメじゃん／え、え、ここかな、ここ？　あってる？
▽琴水　ああ、こーこ、じゃないっすか？

琴水、涼花の順で登場。ふたりともやや地味なドレス。琴水の方がやや華やかな色合い。

明日歌　あ、――こんにちは。
涼花　おめでとうございます。
琴水　［おめでとうございます。
明日歌　［あー、あの、おめでとうございます。
琴水　あってます、こっち？　新婦側のご友人――。
明日歌　ああ、はい。そうですね＝
涼花　ですよね・ですよね。
明日歌　＝一応、表に名前書いてありましたんで、
琴水　名前？　ああ。
明日歌　まあ、何個かあるみたいなんですけど、お部屋。

涼花　ああ、そうなんですね。

琴水、部屋の外に行き名札らしきものを確認する。

琴水　（表の名札らしきものを見て）スズさん、気まずくないですか？＝

涼花　（涼花も部屋から出て名札を確認）え、何が何が？

琴水　美海さん一緒ですよ、

涼花　別に何も――。

涼花から部屋に戻ってくる。

琴水、椅子に腰掛ける。続いて涼花も。

涼花　やー、でも気まずいね、さっきの。お姉ちゃんの。

琴水　そうなんですよ。や・そんでしょうがないから、あたしが空気読んで・「お姉ちゃーん」とかっていって近くいってあげて、鬼のように自撮りして。

涼花　やさしさ。

琴水　や・だって姉ちゃんとかちょっとキレ気味んなっちゃってて、「シャッター・チャンスですけどー」みたくなっちゃってて＝

涼花　ああー。

琴水　＝だからやっぱ盛り上がんないよりは全然、うるさいぐらいのがマシかなって、

涼花　じゃあ、あれだね。――今日も任せたから＝

琴水　えー。

涼花　＝や・盛り上がってなかったらさ。

琴水　そりゃアゲますけど／えー、でも普通に盛り上がんじゃないですか？　亜矢先輩ですよ、だって？

涼花　なになに、どういう意味？

琴水　なんかだって、今日とかも人・多いんじゃないですか？

涼花　え、お姉ちゃんの時は人少なかったの？

琴水　あー、――多かったです。

涼花　★多かったんかい。

琴水　★ですけど。でもホラ、そん時は地味キャラ博覧会だったんで＝

涼花　はい・はい・はい。

琴水　＝大概はまあ、職場の人みたいな感じだったんで、お通夜状態が通常運転みたいな感じだったんですけど、ま・でも、普通はね？　人多かったらそれなりワイワイするじゃないですか？

涼花　やあ、でも披露宴はそんな呼んでない感じじゃない？

琴水　いや、披露宴はそうかもしんないですけど、でもホラ、二次会は絶対・多いじゃないですか？　だって亜矢先輩ですよ？

涼花　待って・待って、「亜矢先輩」ってもう学生じゃないんだからさ、

琴水　ええ？　だって先輩じゃないですか。
涼花　そうだけど・そうだけど。
琴水　というか、お茶でも淹れます？
涼花　え？　ああ、じゃあ――、お願いしよっかな。
琴水　はいはい。只今。（明日歌に）あー、すみません、お茶いかがですか？
明日歌　あ、
琴水　淹れますんで。
明日歌　ああ、すみません、気がつかないで＝
琴水　＝いいの・いいの。そんな意味じゃないですし。というか飲んでいいんですよね、これ？
明日歌　あー、いい、んじゃないですかね？　というか、さっきいただいちゃって、
琴水　ああ、そうなんですね。

明日歌、自分のカップを示して。

明日歌　これなんですけど、あ、知ってます、桜茶？
琴水　はい。
明日歌　なんか花開くっていって、縁起がいいみたいでー。
琴水　――ねえ。
明日歌　ああ、じゃあ、あたしが淹れますよ、
琴水　いい、いい、いい、大丈夫、大丈夫。
明日歌　ああ、じゃあ、なんかすみません。
琴水　いーえー。

琴水、以下のやりとりの中で手際よくお茶を淹れる。

琴水　あー、それにあれですよね。今日、お子さんいらっしゃるんですよね？
涼花　え？　ああ、亜矢さんの？＝
琴水　そうです・そうです。
涼花　＝や、まあ、いるらしいけど＝
琴水　＝ですよね？　そしたらまた盛り上がるんじゃないですか？
涼花　ああ。まあ、ね。

一拍。

琴水　まあ、新婦のお子さんとかいると・親族はちょっと微妙な空気とか流れますけど、実際・披露宴とかになったら絶対その方がアガりますから。
涼花　いやいやいや、［琴水ちゃん、ちょっとさ。
琴水　［葬式だって盛り上がりますからね、子供いたら。［和む・和む。

涼花　［待て待て待て、え、なに、君は、何も聞いてないの？
琴水　ああ、お子さんのことですか？　聞いてますよ＝
涼花　＝だよね・だよね＝
琴水　＝でもでもでも、それにしたって、っていう話ですよ、［だから。
涼花　［や・そういうね、なんか、ワイワイするような感じじゃないらしいよ、［［もはや。
琴水　［［えー、でも、お姉ちゃん時とかも盛り上がりましたよ？　もう、地味キャラ博覧会の中で唯一の救いっていうか――。結果、「居てくれてありがとう」みたくなりましたもん、［だって。
涼花　［うんうんうん。全然違う・全然違う。
琴水　ええ、何がですか？
涼花　なんか琴水、ちょっと勘違いしてるかもしんない。結構、そういうね、――重い感じらしいから。
琴水　聞いてますって、だから。割と重いっていう。
涼花　なんていうか、すっごい静かな感じらしいよ。だから、途中で泣いちゃったりとか、そういう感じじゃないみたいよ。
琴水　あー。はい。そうなんですよね。
涼花　うんうんうん。

一拍。

【3】○　粗茶でございます

涼花　いいや・いいや、それはじゃあもう、ね。というかさ、なんていうかその話はいったん、いったん置いておこう。
琴水　ああ、はい。（明日香にお茶を差し出し）どうぞー。
明日歌　ああ、すみません。ありがとうございます。
琴水　いーえー。

琴水、涼花の方へもお茶を持っていく。

琴水　（お道化て）粗茶でございますー。
涼花　ありがと。（目つきで明日歌を示し）え、ダンス部の後輩？
琴水　え？　ああ、いや、（明日歌に）え・ダンス部の方ですか？
涼花　お、［マジか。
明日歌　［あ、え？
琴水　ダンス部じゃない？　マル高の？
明日歌　ち、あー、違いますね。

琴水　あー、ですよね、ごめんなさい。（涼花に）違いましたね。
涼花　（明日歌に）すみません、なんか。
明日歌　いえいえ。
涼花　え・え、いきなり聞く？
琴水　だって、スズさんが聞くから。
涼花　★そうだけど・そうだけど。ま、後輩じゃなかったわけね。
琴水　はい。

一拍。「――え、じゃあ、誰？」という目線が明日歌へ。明日歌、それに気づいて、

明日歌　あー、あたしはあの、亜矢ちゃんの従姉妹で――
涼花　［従姉妹？
琴水　［えー、そうなんすか。あたしてっきり、あー、なんかすみません。
明日歌　いえいえ、そんな――。
涼花　うちらはあの、あ、伊藤と、
琴水　あ、結城です。
涼花　亜矢さんとは高校のダンス部で、――もうなんかいろいろとお世話になってまして。
明日歌　ああー。そうなんですね。
涼花　はい。だからあたしはまあ、（自分を指し）後輩Ａ？　みたいな感じで。
琴水　後輩Ａダッシュみたいな？
涼花　Ｂでいいだろ。
明日歌　ああ、あれですよね、今日なんか、二次会で？
涼花　ああ、そうなんですよ。
琴水　二次会で。
明日歌　ねえ。なんか踊っていただくっていうか、そんなお話を。
琴水　やあ、ちょっとあんま期待しないでくださいよ？　一発芸的なアレなんで。
涼花　全然、合わせられて無いんで。もう、ね、ダンス部はこういう時、絶対、ね。
琴水　あるあるっすよねえ。いや、すっげえ緊張してんですけど、あたし。
涼花　いやいや、あたしだってヤバいよそれは。
明日歌　やあ、ホント楽しみにしてます。
涼花　［やめてやめて、［［そういうのは、
琴水　［［ホント、はじめてのおつかいぐらい暖かい目で見てやって。もう、全然、全然合わせられてないから、
明日歌　はじめてのおつかい。
涼花　というか、あたしなんかぶっつけに近いんだけど。え、地元組は結構合わせてんでしょ？
琴水　いや、でも二回だけですよ。
涼花　いやいやいや、でも、違うって。その二回は全然違うって＝
琴水　＝ちょっ、なんすかなんすか、スズさんまでそんなハードルあげてきて、

涼花　いやでも実際、あたしよりは琴水のがブランクも短いし、若さゆえのキレがあるだろうし？
琴水　いやでも、大会の成績でいったら全然スズさんの代のが全然上じゃないですか？　もう、全国行ってますからね、全国。
明日歌　ああ、［そうですよね。
涼花　［そんなん、大昔の話でしょ。てか、あんたも出てたじゃんそん時。
琴水　いや、でもうちらの代になったらも・全然。惨敗だったんで。
涼花　あれは方向性がマニアックすぎたんだよ。全員でヒゲもじゃのおじいさんなんかやるから。
明日歌　おじいさん？
琴水　ちょっ、なんすか・なんすか？　今日もちゃんとヒゲ、用意してありますからね？
涼花　――本気でいってんの？＝
琴水　＝本気ですよ。揃ってますからね、全員分。
涼花　ああ、そう。
明日歌　あ、じゃあ、あたし写真いっぱい撮りますね、
琴水　や、まあ、そんな、残すほどのもんじゃないけどね。
明日歌　そんなそんな、
涼花　まあ、じゃあ、そういうのも含めて、琴水に任せるわ、今日は。
琴水　ええ？　スズさんまさか踊らないつもりですか？
涼花　いやいや、踊る踊る、踊るけど、
琴水　はい。――って、ちょっと待ってくださいよ。――止めません、この話題？　緊張するばっかりですし。
涼花　いや、確かに・確かに。
琴水　ね？　忘れましょう、いったん。いったん。
涼花　ね・ね。今さらどうなるもんでもない＝
琴水　＝そう！　まずは披露宴ですからね、［披露宴。
涼花　［おっけ・おっけ・おっけ。

一拍。

琴水　やー、ホントお似合いですねー、ドレス。
明日歌　え？　［ああ、ああ、
涼花　［急だなまた。
明日歌　ありがとうございます。
琴水　よくないですか、これ？　さっきからずっと気になってたんですけど／えー、かわいいー（首飾りについて）。
明日歌　やあ、なんか亜矢ちゃんのお古で――
琴水　ああ、そう？　亜矢さんの？
明日歌　はい。こういうのあたし、なんも持ってないんで＝

琴水　＝え、でもすっごい似合ってる。［全然。
涼花　［ねえ。細いからホント。そんなもうね、膨張色は着れないあたしは。
琴水　いやいや、スズさんも十分細いっすから。
明日歌　［いや、ホントに。
涼花　［違う違う。これはもうね、隠してっから、いろいろ。
琴水　またまたー。

一拍。

琴水　（明日歌に）え・でもちょっと思ったんですけど、いいんですかこっちの部屋にいて？
涼花　［ああ、ねえ。
明日歌　［あー、――というと？
琴水　あ、普通、――ご親族の方って＝
涼花　＝別のお部屋っていうか＝
琴水　＝そうそうそうそう。
明日歌　★や、なんていうか、あ、あるんですけどね、全然・ご親族の部屋は＝
琴水　＝はいはい。
明日歌　なんか、えーと、なんていうんですかね、――美海さんの、つながりで、あたしはこっちのがいいんじゃないかってなって。
涼花　［あー、そうですか。
琴水　［あー、へー。あ、美海さん――？
明日歌　ああ、はい。斉藤美海さんの／ああ、美海さん、は？（ご存知ですよね）
涼花　［もちろん・もちろん。
琴水　［あー、なに、美海さんのつながりなんだ？
明日歌　はい、いやあの、あたしがなんていうか、美海さんのお店でバイトさせてもらってて＝
琴水　あー。
明日歌　＝だからあの、亜矢ちゃんにそのお店を紹介してもらって、っていう、［バイト探してた時に。
琴水　［ああー、［［はいはい。
涼花　［［なるほどね。
明日歌　はい、そういう、なんか。
琴水　あー、美海さんのね。そっか・そっか。

間。

【4】○　琴水の再婚相手。

琴水　気まずいっすね。

涼花　（ノリ良く）や・気まずくはないし！
明日歌　（冗談だと思って笑って）え、え？
涼花　（明日歌に）もうホント、全然気まずいとかないからね／琴水、おまえー、
琴水　すみません・すみません＝
涼花　＝あのね、ちょっと言っとくけど琴水ちゃんね＝
琴水　★はい・はい。反省してます。
涼花　＝今日、っていうか、こういう時はそういうの無しだから＝
琴水　＝そういうの？＝
涼花　＝ブラックジョーク的なやつはダメだから、こういうなに？　冠婚葬祭系は、
琴水　やあ、そうなんすよねー。そういうのなかなか［身につかなくて。
涼花　［あとあと響いてくるからね、「え、なにあの人？」ってなるから。
琴水　ですよね、ほんと。
涼花　――琴水のが全然わかってんでしょ、もう、二回もやってんだからさ。
琴水　あ・あー！　そういうこと言うのもダメなんですよ、二回も、とか、そういうのもアウト
　じゃないですか？　縁起的には。（明日歌に）アウトですよね？
明日歌　（困って）やあ、［どう――。
涼花　［事実じゃん、だってそれは。
琴水　事実ですけど。ダメなんですよ、［事実でも。
涼花　（明日歌に）［ホントごめんね、なんていうか、この人バツイチ再婚済みだからさ、ちょ
　っと存在自体が若干縁起悪いんだけど＝
琴水　やめろ・やめろ。
涼花　＝しかも相手がホント・シャレになってないんだけど、
琴水　★ちょっと・ちょっと・ちょっと！

琴水、涼花、少し明日歌から離れる。

涼花　（小声）いいじゃん、いいじゃん、［ウケるじゃん、ウケるじゃんこの話。ちょっとおも
　しろいじゃん。
琴水　［（小声）なんすか・なんすか・なんすか、
涼花　（明日歌に）あのなんかァ＝
琴水　え・言うんだ。
涼花　＝この子の再婚相手があたしの元カレっていう事情がありまして、
明日歌　（驚いて）あ、えー？　そうなんですか。あー。［へー。
琴水　［いや別に、時期はカブってはないですから！　時期はカブってない！＝
涼花　そうねそうね、
琴水　＝全然もう、セーフティですから。
涼花　――確かにまあ、ね、翔也とは別れたあとだった。
琴水　ちょ、名前言うなし。

涼花　けど、まあ、琴美的にはこう、ね？　前の旦那と今の旦那がこう――
琴水　辞めましょうって、そういう話は。
涼花　え、え、どっち？　――被ってたか、被ってなかったかでいったら？
琴水　いや、だからぁ、
涼花　あれ、被ってなかったんだっけ？
琴水　いや、モロ被りっすね／アハハハ！
涼花　ハハハ。

一拍。

明日歌　ああ。じゃあその、スズさん？　と、その彼氏さんが別れたあとでこう、
涼花　そうそう。あたしと別れたあとに琴水ちゃんが付き合い始めたんだけど、
明日歌　はい。
涼花　まあ、そん時琴水ちゃん結婚してたよね、っていう。
明日歌　［はー。
琴水　［いやいやいや、
明日歌　いやー。よく、あの、こうやってまたお友達でいられますね。

間。

明日歌　って、なんかごめんなさい、ヘンなこと言っちゃって、［ああ、すみません、
涼花　［いやいやいや、大丈夫大丈夫。そんなもう、全然。昔の話だから。
琴水　［［そうそうそう。
明日歌　［［ああ。
涼花　ホントもう、何年前の話よ、って感じだから。ねえ？
琴水　やあ、まあ、そうですね。結構経ちますから実際。
明日歌　ああ――。
涼花　まあ、だから、ちょっと存在自体が縁起悪いんですけどね、この人＝
琴水　＝まあ、否定はできないすけど＝
涼花　＝なんていうか回転早いんで。
明日歌　回転――。
琴水　ちょっとちょっと、もう全然そんなの／（明日歌に）え、ダメですよね？　回転早いとか
　縁起悪くないですか？　お寿司じゃないんですから。
涼花　お寿司？
琴水　回転して喜ばれるのなんてお寿司とメリーゴーランドだけっすよ。こういうおめでたい席
　では、なおさら。（明日歌に）ねえ？
明日歌　いやま、［どうでしょう――。
涼花　［ごめんなさいね。わからないんですよ、いってることが。

琴水　★いやいやいや、わかるし。めっちゃめでたいですし。回りますし。お寿司ですし。コトブキですし＝
涼花　黙って黙って、
琴水　＝スズさんのが全然・縁起悪いですよ。すっげえ気まずいですし、美海さんと。
涼花　★いやいやいや、止めてホントそういうの。違う・あのね、ウチらこれから美海さんと顔合わせんだからね？
琴水　はい。――（楽しそうに）え・なんすか・なんすか？　もう、ずっと会ってないんですか？
涼花　えー、別にそういうわけじゃないけど――。

間。

涼花　ま、普通に会わないでしょ、だって／（明日歌に）や、そういう気まずいとかじゃなくてね／そんなだって、もう基本そんな・こっち帰って来ないしあたし。
琴水　ああ、上京してからはもう？
涼花　そう・そう・そう。まあ、近くはないしさ、だって＝
琴水　まあ・まあ・まあ。
涼花　＝今年なんかだってお正月も帰んなかったでしょ？
琴水　確かに。せっかくあたしが時間作ってあげたのにスズさんがもう＝
涼花　＝一番忙しいの、お正月は。休めるわけないでしょ。
琴水　あ、またそうやって業界人ぶって。
涼花　ぶってない・ぶってない。
琴水　もう、東京風をこうね、［吹かす吹かす。
涼花　［というか、待って待って、業界人ではなくない？
琴水　え、アパレル業界じゃないですか。
涼花　そうだけど――、
琴水　アパレル風でこう（身振り）、ね、なびいた髪にパーマがよくかかりますわ。
涼花　そんなんいったら・なんだって業界でしょ――酪農だって業界でしょうが。
琴水　酪農は業界とかないでしょ＝
涼花　＝いやいや、あるでしょ、そりゃ。

一拍。

琴水　ま、確かに業界は業界か、――酪農業界。――言うか＝
涼花　＝言うよ。じゃなくって、え、ちょっと、なんの話これ？
琴水　や、え、だから気まずいなって、
涼花　★気まずくはない、って話ね。――そうそう。そもそも会ってないし、まあ、別にこっちいても会わないと思うけど――。だってそんな会わなくない？　学校のつながり。
琴水　や、会いますよ、めっちゃ。

涼花　ええ、誰と会ってんの？　翔也？
琴水　――も、そうですし／だから名前出さない／あとまあ、普通にスズさんとか。
涼花　あたしはまあ、そうだけど、
琴水　★あと、ゆっぴとか。
涼花　ゆっぴね。ああ――他は？
琴水　だからさっちゃんとか、ゆっきーとか、
涼花　ひとみんは？＝
琴水　＝ひとみんめっちゃ会いますよ。というか今、一番つるんでんのひとみんですわ＝
涼花　＝あ・そうなんだ？＝
琴水　＝はい。もうなんだったら週一ぐらいで飲み行ってて。
涼花　そんな仲良かったっけ？　［週一ってそんな。
琴水　［や、違うんですよ、ここ何年かで急に仲良くなって。なんていうんですか、――バツついたのを期に＝
涼花　＝ええ？　なにそれ・なにそれ？
琴水　なんかホラ、ひとみんもバツついてっからいろいろ相談して、
涼花　あ、へえー？　そうなんだ？　え、飲みってそんな、子供おいて？
琴水　や、withですよ、with＝
涼花　with？
琴水　＝一緒だったり、まあ、旦那に見てもらったりもしますけど、いや、飲むっていってもそんないっぱいは飲まないですよ？
涼花　というかさ、え、ひとみん結婚してたんだ？＝
琴水　＝あれ、知りません？＝
涼花　＝全然。
琴水　ああ――、してましたよ＝
涼花　えー、そうだったんだー。
琴水　＝もう・でも、二年も持ちませんでしたけどね――。（慌てて）あー、でもなんか式とかはホントちっさい感じですっごい少人数でやってたんで＝
涼花　＝そんでなに、今はいちばんつるんでんだ？
琴水　や・だっていないんすよ、人が。――なんだったら牛のが多いですから。ファームですから、［この辺は。
涼花　［いや、それは無いでしょ、
琴水　ありますって！　なにいってんすか、は？　スズさんちの方だって牛のが多いでしょ。
涼花　知らないよそんな、数えてないし。
琴水　ちょっ・見て、現実を。直視して、牛さんを。［モーモー、モーモー、
涼花　［やめて・やめて。
明日歌　え、あのじゃあ、

一拍。

明日歌　今はどちらにお住まいになってるんですか？
琴水　あー、どこでしたっけ？
涼花　えー？　だから、千歳船橋。
明日歌　（どこだかわからず）あー。
琴水　何区すか、それ？
涼花　ええ、だから、――世田谷？
明日歌　［あー。世田谷。
琴水　［わ、ええ？　世田谷っすか？＝
涼花　いやいやいや、違うよそんな、
琴水　＝すごいっすねなんか、セレブ・［セレブ、鼻セレブ。
涼花　［セレブじゃない。鼻セレブじゃない。
琴水　だってめっちゃ高級住宅街っていうか＝
明日歌　＝ですよねえ。
琴水　［そりゃアパレル風吹きますわ。
涼花　［や、違うって、それもう絶対誤解してるから。
琴水　なんか名前強そうだし、「チトセフナバシ」！　これはもう京王稲田堤！　以来の衝撃ですよ＝
涼花　＝言い方じゃん／違う違う、もう見せてやりたいよ、あたしんち。せっまいワンルームだからね？
琴水　オートロックとかもなしで？
涼花　や、――オートロックはあるけど＝
琴水　＝やっぱ高級じゃないですか！
涼花　違う、別に普通に付いてただけで、
琴水　普通じゃないですもん・そんなん、もー。（明日歌に）え・だってオートロックついてます？
明日歌　や、うちはそんな――。
琴水　［でしょ？
涼花　［そりゃ実家はついてないでしょ、
琴水　あれですよだって、うちのばあちゃんとこなんか鍵ないですからね、未だ。
涼花　［ええ？
明日歌　［ああー。ありますねそういうとこ――。
涼花　待って・鍵無いって、――え、玄関の鍵？＝
琴水　＝はい。無いっすよ。閉めてないとかじゃなくて・そもそも無いっていう。門戸開放ですよ。もはや早稲田大学とかと同じレベルですからね。蒙古襲来っすよ。
涼花　（明日歌に）え、え、待って、――玄関の鍵はあるでしょ？　蒙古は関係ねーし。
明日歌　それは、はい。
涼花　［ねえ。

琴水　［え、え、え、家賃どんぐらいなんですか、家賃？
涼花　家賃はだから、――九万ちょっと？
明日歌　［ええ！
琴水　［たっか！　たっか！
涼花　そうなんだよ、もう、せっまい部屋なのにそんな取られてさあ。
琴水　（明日歌に）やあ、でもスズさんの言う狭いは／（涼花に）え、ドーム何個分ですか？
涼花　だから狭いんだって、ホントに。
琴水　そうですか・そうですか。

一拍。

【5】○　たい焼き

琴水　んー、でも（立って近づく）
涼花　――なんだよ。
琴水　いいとこなんですよね？　それなり。
涼花　まあ、それなり、
琴水　やっぱ狭くても、実家帰るかー、とはならないわけじゃないですか？
涼花　ま・ま、帰るかー、とはなんないけどさ＝
琴水　＝ね。そうなんすよ。――そういうことなんすよ＝
涼花　＝どうゆうことなんだよ。――いや、言うて、行ったばっかだしね、あたし。
琴水　あー、もう絶対行きますからね・東京。そんときはちょっとお願いしますんで、先輩。
涼花　まあ、いいけどさ。――とかいって、絶対来ないじゃん・琴水。結婚しちゃったし。
明日歌　ああー。［そうですよね。
琴水　［や、あれはホント。自分でもびっくりっていうかね、うっかりっていうか＝
涼花　＝うっかりで二回もするかい。
明日歌　でもすごいですよ、二回もできるって。
涼花　そう？
明日歌　だってそういう、――ねえ？　居たわけじゃないですかお相手が？　一生一緒にいても
　いいな、って思わせたわけじゃないですか、魅力っていうか、そういうので、
涼花　まあ、この子は戦略が違うから。
明日歌　［ああ。
琴水　［や、なんかホント、たまたまっすよ＝
涼花　たまたまー？
琴水　＝なんか気づいたら二回してた、みたいな？　や、でもホント、旦那とも近いうち東京出
　よっかって話してて、
涼花　えー？　仕事あんでしょ、だって。

琴水　（冗談でムッとして）そんなん別にどうとでもなるじゃないですか。大した仕事じゃあるまいし。
涼花　え、え、なにしてんだっけ、今？　まだやってんのあれ？
琴水　ディーラーっすか？　やってますよ、そりゃ。
涼花　ああ、そうなんだ――。だったらまあ、別に東京でもいっか。
琴水　そうなんすよ。どこだってまあ、車はありますから。

一拍。

涼花　え？　だったら来ればいいじゃん。（明日歌に）ねえ？
明日歌　ええ。
琴水　いやいやいや、「来ればいいじゃん」って簡単にいいますけどね。――そりゃあたしだってちょっとは貯金とかしてたんですけど／まあホラ、上京するつもりでしたし？＝
涼花　はいはい。
琴水　＝なんかもう、一生東京行かないまま死ぬのは違うか、って思ってたんでいっぺん行こうっていって貯金してたんですけどォ＝
涼花　＝うん、けど？
琴水　きれーに消えましたからね。恐ろしい行事ですよ、結婚とは。
涼花　ああ、そう？
琴水　もうね、魔物が住んでます。たい焼きです。

一拍。

明日歌　たい焼き？＝
琴水　＝なんていうんすか、こう、ね。ドヨーンとどす黒いものが腹に溜まってくる、不快感っていうかね、金欠っていうか、
涼花　それ、たい焼きか――？
琴水　★だってもう、やれ結納だー、新婚旅行だー、いってると身ぐるみはがされますからね。もう、餡だけにされて屋台に引きずり出されますよ。
涼花　やんなきゃいいのに、［そんなん。
明日歌　［ああ、そういうものですか、やっぱり？
琴水　恐ろしい行事ですわ。これはもうね、元・たい焼きだったのか元・大判焼きだっのかわかんねーぞってレベルで餡だけにされて・放り出されて。
涼花　ちょっと、さっきから結婚のマイナスイメージつけすぎだから。若い子にそんな、ねえ？
明日歌　いえいえ、そんなこと無いですけど。
涼花　わかんねーし・急にたい焼きとか言われても。
琴水　いや、よくわかるじゃないですか？　不快感のメタファーですよ、こう、ねえ？
明日歌　はい。まあ、わかる気がします、

涼花　わかるんかい。

一拍。

琴水　（明日歌に）え、というか、おいくつなんですか、えーと？
明日歌　あ、あたし？　は、二十二、になったばっかりですけど。
琴水　ああ、そう？　二十二？
涼花　若！　えー。
明日歌　はい。一週間ぐらい前にちょうど誕生日で。
琴水　ああー、それはそれは。ハッピー・バースデー、ディア、ヨーコ。
涼花　ヨーコちゃうわ。
明日歌　あー、あたしはあの、
涼花　★あー、待って、わかるあたし、えーとね、――明日歌ちゃん。
明日歌　（驚いて）あー、はい。そうです。明日歌です。
涼花　［だよね。
琴水　［ええ。なんで把握してんすか？
涼花　（得意げに）や、もう、それはさ。亜矢さんのことは調べはついてっから、
琴水　こええ、なんすかそれ。
涼花　もう一方的にね。憧れっていうか、
琴水　それを言うなら美海先輩じゃないですか。スズさんの憧れは。
涼花　（明るく軽く）うん。まあそれもあったけどね。そりゃ。
琴水　［そうっすよ。
明日歌　［へえ。

一拍。

明日歌　じゃあ結構、親しくされてたんですね、美海さんと？
琴水　そうそうそう。なんかいっつも一緒にいて。
明日歌　へー。
涼花　や、過去形じゃないからね。今も親しいから別に。
明日歌　あ、はい。そう、ですよね。

お茶を飲んでもよい。明日歌、携帯端末を見る。

琴水　というか、あれですね。まだなんですね、美海さん？
涼花　あー、ね。そっか。この部屋に来るんだもんね？　確かに。
明日歌　★いや、あー、美海さん、は、もういらしてるんですけど、
琴水　ああ、そうなんだ？

明日歌　はい。もう、式にいらしてたんで、午前中から、
琴水　ああ、そっかそっか。式にね。
明日歌　［はい。
涼花　［あ、じゃあ、もう先行ってるんじゃないの？＝
琴水　＝ああ、そっか。
明日歌　★いやいや、ちょっとなんか、お仕事っていうか、あのー、
琴水　――お仕事？＝
涼花　＝こんな時に？
明日歌　ああ、いや、ちょっと電話一本いれてこないと、っていって、あのー、急用みたいな感じで？　［それでさっき出ていかれまして。
涼花　［ああ、へー、そうなんだ。
明日歌　はい。すぐ戻ってくる、っていうあれだったんですけど、あれ、なんか、ちょっと遅い、かもしんないですね？
琴水　ねえ。ちょっと。
涼花　こんな時に、お仕事、でもないと思うんだけどねえ――。

一拍。

琴水　大丈夫なんすかね？
涼花　まあ、大丈夫なんじゃないの？　だって、もう、いらしてるわけだしね。
琴水　や・でも、結構、キツキツじゃないですかこういう、式場とかって？
涼花　ああ、［まあ、ねえ。
明日歌　［じゃ、じゃあ、ちょっとあたし見てきますね。
琴水　ああ、そうですか？
明日歌　はい。もう、どっかそのへんいると思いますんで。
琴水　そっかそっか。
涼花　電話してるだけだもんね。
明日歌　はい。まあ、遅れるってことはないと思うんですけど――。それじゃ、ちょっと失礼して。（茶飲み茶碗を戻して）ごちそうさまでした。
琴水　ああ、いえいえ。まあ、あたしのじゃないし。
涼花　なんか、ごめんね、うるさくしちゃってて。
明日歌　やー、全然、全然。それじゃあ、まあ。

明日歌、退場。

【6】○　アナフィラキシー

涼花　めっちゃいい子じゃんね。

琴水　そっすねえ。――というか、よく知ってましたね、あの子のこと。
涼花　え？　ああ――。なんか亜矢さんからちょくちょく聞いてたからさ。名前だけは。
琴水　へー。
涼花　まあ、なんていうの。家族の一員的な感じらしいからさ。
琴水　はいはいはい。

一拍。

琴水　え、じゃあ、これってやっぱあれですかね、亜矢先輩もちょっと、スズさん意識してるっていうか、そういう、気ィ遣ったんですかね？
涼花　え、なんで亜矢さんが気ィ遣うの？
琴水　いや、だから、ふたりの仲直りっていうか？　なんていうか、長州の側からは薩長同盟申し込めないぞ、みたいな？　そういう感じで。
涼花　――ごめん、全然わかんない。ちょっと考えてはみたんだけど＝
琴水　＝まあまあまあ、言ってる本人もわかんないんですからね＝
涼花　＝どういうこと。ちょい、琴水ちゃん・琴美ちゃんさ＝
琴水　はい、はい、はい。
涼花　＝抑えよう、そろそろ？　あたしちょっと、このペースで行かれると、式が終わる頃にはアレルギー反応出てっから。［抵抗力弱ってっからさ、久しぶりで。
琴水　［はいはいはい。あれですよねだから、アナフィラキシー的な？
涼花　そうそう、アナフィラキシー的なね。琴水に対しての。

間。

琴水　スズさん、アナフィラキシーって、どういう意味でしたっけ？
涼花　自分でいったんじゃ／ええ？
琴水　★いや、なんとなくで言っちゃってたから＝
涼花　＝そういうとこだよ、だから。
琴水　そういうとこですよね。気をつけます、はい。

一拍。

琴水　でも、やっぱあれですね。美海さんは式も呼ばれてるんですね。
涼花　んー。まあ、そりゃそうでしょ。亜矢さんの親友っていうかね、今日だってもう、メインキャラのひとりみたいなもんでしょ？＝
琴水　＝ですよね・ですよね。えー、なのに大変っすね、こんな時までお仕事あって。
涼花　ねえ。というか、そういう人じゃなかったと思うんだけどね、美海さんて。
琴水　ええ？　どういう意味ですか？

涼花　え、何ていうの、だからそういう、余裕の無さを感じさせないというか？
琴水　ああ、きっちりしてましたもんね。
涼花　そうそうそう。
琴水　いつも集合とかも一番乗りみたいな＝
涼花　＝だったよね。まあ、だから、ねえ。
琴水　ああ、遅れるような人じゃないですもんね。
涼花　そうそうそう。

一拍。

琴水　余裕ないんすかね。近頃。
涼花　なに、どういうこと？　余裕ないの、美海さん？
琴水　いや、なんか――わかんないですけど、
涼花　うん。
琴水　一応だって、――ねえ。美海さんも結婚してらっしゃるわけじゃないですか？＝
涼花　ああ、そうねえ。
琴水　＝だけど、バリバリ働いてるっていうか、正社員ですからね、今。飲食の。
涼花　ああ、そっかあ――。

一拍。

涼花　まあ、（家計が）大変なのかなあ、なんか。
琴水　どうなんすかねえ。
涼花　え、琴水はもうなに、今は社員とかじゃないの？
琴水　いやいやいや、社員ですよ、全然。
涼花　あ、そう？　え、じゃあ、大変じゃん。子供もいんのに。
琴水　いやいやいや、だからこそ、なんですよ＝
涼花　＝だからこそ？
琴水　や、なんか前の結婚の時に思ったんですけど――、え、ちょっとあたしの話・してもいいターンですか？
涼花　うん。いいよいいよ。なに？
琴水　やっぱ自分に経済力ないと、どっか弱気になっちゃうとこあるんで、――頼っちゃうっていうか？＝
涼花　あー。
琴水　＝もう、そういうの辞めようって思って。前はなんか、そういう、経済力とかもそうです し、なんか自分にないもの求めてたみたいなとこあったんですけど、そういうのはもう辞めて。いったんアテにしないっていうか、自分で働くからいっか、みたいに考えて＝
涼花　うんうん。

琴水　＝そしたらなんか男の幅、っていうか、まあ、男だけじゃないですけど、なんていうんですか、こう、人生の選択肢みたいのが、一気に広がるじゃないですか？
涼花　すごいね、なんか。そこまで行ってないあたし。
琴水　だって別に、や、最後は自分が頼りじゃないですか？　あと、親と？　イザとなったらこっちから切ればいいっか、とか思えると違いますよ全然。
涼花　ああ、そういうもの――。
涼花　むしろなんか、その方が相手のダメなとこも許せるっていうか、［いろいろと。
涼花　［ああ、翔也なー。ダメなとこなー。
琴水　★おお、名前出すな。［やめろやめろ。
涼花　［やあ、でも、ホントすごいわ。たくましい、なんか。そっかー。あの琴水がなー。

一拍。

【7】○　ふるさと

琴水　え、スズさんはなんか無いんですか？　東京で。浮いた話。
涼花　浮いた話――。
琴水　はい。
涼花　まあ、無いことは無いけど。
琴水　ええ？　聞いてない・聞いてない。彼氏できたんですか？　東京の？
涼花　ま、そうだけど。東京の人といえば東京の人だけど＝
琴水　おおー。
涼花　＝え、でも全然、田舎の人だけどね。出身、茨城だし。
琴水　茨城。ああ、水戸っすか。あ、じゃあ、双子生まれたらあれですね、助さん格さんですね。
涼花　いやいや、双子は産まないし。
琴水　ん？　双子じゃなかったら産むんですか？
涼花　え？

一拍。

琴水　スズさん、子供産むんですか？

間。

涼花　いやいや、そうじゃなくて助さん格さんは双子じゃないでしょ、っていう。
琴水　ああ、そっかそっかそうですよね。

一拍。

琴水　まあ、でも、東京なんてあれですもんね、いろんな人集まってるっていうか、
涼花　そうそうそう。田舎もんの集まりだからさ。
琴水　そんじゃ行けますかね、あたしも？　世田谷？
涼花　いやいや、全然。ていうか、え、なんでそんな東京行きたいの？
琴水　えー。なんでってそんな——え・それスズさんが聞きます？　むしろあたしが聞きたいですよ。
涼花　ああ、——まあ、そっか。
琴水　そうですよ。所詮・言ってるだけなんであたしは。え、なんでそんなスズさん、わざわざ東京へ？
涼花　いや、なんか、まあ、——んんー。大学からの流れってだけなんだけど＝
琴水　＝そんなもんこっちで職探したらいいじゃないですか？
涼花　まあね・まあね。いやでも、なかなか無いじゃん？　地元でいいとこって。
琴水　そうっすか？　でも、じゃあ、え、スズさんこっちでも就活したんすか？
涼花　してない。
琴水　うそつきだ！　この女はうそをついている！
涼花　違う違う違う。
琴水　違くないじゃないですか！
涼花　や、だけど、うー、ああ、まあ、そうか。
琴水　そうっすよ。郷土を愛する心は無いのか！
涼花　あるある。いや、あるけどさ、そりゃ。——でもなんか、えー？　息苦しかったんじゃない？
琴水　こっち帰ってくんのも、なんか。知り合いばっかだし。
涼花　いいじゃないですか、知り合い、いっぱいいて。
琴水　そうなんだけどね——。

【8】○　車、買いたい

琴水　あー、そうだそうだ。ちょっといいですか？　あとひとつだけ聞いてほしいことあんですけど＝
涼花　なになに？
琴水　＝ちょっと今、本気で悩んでることがあって。
涼花　大したことじゃないんでしょ、どうせ？
琴水　いやいやいや！　大した事——ではないですねこれは。
涼花　うんうん。
琴水　え、でも、そんなん言ったら人生の大事件なんか、生まれた、死んだ、しかないじゃないですか。
涼花　極端。もう君は極端なんだ。
琴水　★違うんすよ、なんかあの、え、いいですか？　ちょっと今、欲しい車があって、

涼花　車？
琴水　やっぱどうせなら絶対新車がいいなってのがあって、そんなだって、安い買い物じゃないし、どうせならいい車乗りたいじゃないですか？　ブンブブ・ブンブブ言うて？＝
涼花　バイクだよそれは。
琴水　＝や、なんか旦那もいろいろこだわるじゃないですか、仕事柄？
涼花　あー。そりゃあねえ。
琴水　や、そんで旦那とお店とかいってあれこれ選んでたら、どうせならこっちかー、みたいな感じであたしも考えて来ちゃって。もうでも、オプションとか付けだすと十万、二十万すぐなんすよ。
涼花　ああ、そう？　［へー。
琴水　［シートがどうだとか、あ、ナビとかもそうですし、もうダメっすね。金銭感覚おかしくなっちゃって。結婚と車は金の飛び方がエグいっす。アムール川を上る鮭っす。
涼花　なになになに？
琴水　や、それでなんか・イカついのが欲しいね、ってなったんですけど、これもう、どうせなら四駆か？　アメ車か？　みたいになって来ちゃって、
涼花　待って待って待って、なにに使うわけそれ？
琴水　や、別に普段遣いですよ？＝
涼花　ほー。
琴水　＝でもやっぱ燃費悪いじゃないですか・アメ車って？　［迷っちゃって、
涼花　［いや、知らねーっての。え、普通のでいいじゃん。軽でいいじゃ軽で。
琴水　★や、軽はないっす。軽はもう、ハハ。だってスズさん、駅に迎えに来てもらってて、軽から旦那出てきたらどう思います？
涼花　えー？　そんなん別に、ありがとう、だよ。
琴水　うそだー。
涼花　うそじゃねーし＝
琴水　＝殴るでしょ。真顔で（身振り）＝
涼花　＝なんでよ、いいじゃん軽だって？
琴水　だってなんか、えー？　軽っすよ？
涼花　いや、普通に乗ってんでしょ、みんな、軽。
琴水　（引いて）やあ、あたしはちょっと、
涼花　え、もうね、そんないい車なんか買っちゃったら絶対来ないよ、東京？
琴水　やあ、それは自分でもそう／え、やっぱそうですかね？
涼花　だいたい東京で駐車場なんて言ったらもう下手したら三、四万いくからね、
琴水　四万て、えー？　ひとつきですか？＝
涼花　＝そりゃそうでしょ＝
琴水　＝や、えー？　そんなん、えー？　家賃じゃないですかそれはもう。
涼花　だから乗らない人も多いし。あたしだって無いしね、［普通に。
琴水　え、え、成立するんですか、生活？

涼花　してるしてる。あたしもう、ぶっちゃけ運転自信ないし。
琴水　あ、そんな乗ってないんですか？
涼花　乗ってない・乗ってない。帰ってきて親の車借りるぐらいだから。だからさあ、こないだ久しぶりに乗ったらもう、わああ、ってなっちゃって。久しぶりにハンドル握ったら、
琴水　そりゃもう、こっちじゃダメですわ。出世魚になれませんわ。［カンパチっすよ、カンパチ。
涼花　［ねえ。ホントさー。あたしだって結構乗ってたつもりだったんだけどさ、なに、一瞬考えちゃって、「どこ、どこ？」みたいになるから、危ないなこれはって［なって。
琴水　［あー、もう完全にカンパチじゃないですかそれは。
涼花　完全にカンパチではないけどな。というか、部分的にもカンパチではない。――まあ、でも、とにかくね、なんかそういう、危なっかしい感じなの。
琴水　ああ、そうなんすねえ。

【9】○　美海、再登場。

▽明日歌　ええ？　じゃあ、ホントに行くんですか、このあと？
▽美海　そりゃ行きたくはないけどさ、もうだって、長谷川に全部託しちゃってたから、今日の内容は。
▽明日歌　ですよねえ。
▽美海　☆ホントあいつ、任しといてくださいよ、とか言っといてもう。
▽明日歌　いや、ちょっと、ありえないですねこれは。
▽美海　ねえ。頼りになんないんだったらこっちもそのつもりで準備できんのにさー、もう散々お礼とかさせてといてそれはさー。
琴水　☆あ、来た来た来た。隠れないとホラ（いいながら部屋の端へ逃げる）。
涼花　いやいや、隠れないから別に。というか、なんでそっち行くのちょっと。

涼花も琴水を追うように部屋の端へ。と、斉藤美海が入ってくる。

明日歌　ホントに風邪？　って思っちゃいますよねなんか。
美海　ね・ね・ね？　疑いたくはないけどさ。でも、気合の問題でしょ、って思っちゃうよね。もうねー。
明日歌　大変ですね。

と、琴水が近づいて、

琴水　って、美海先輩じゃないですか！
美海　やー、ことちゃん？　久しぶり！

琴水　お久しぶりですー。
美海　えー、めっちゃ似合ってんじゃん。大人・大人。
琴水　でしょでしょー。美海先輩はもう、セクシー侍じゃないですか！
美海　侍？　――え、なんか痩せた？　痩せた？　［あ、絶対痩せたでしょ？
琴水　［や、全然・全然。違います、でぶりました、むしろ。
美海　ウソー？
琴水　ヤバいっすよもう、全然動いてないから、筋肉の落ち方ハンパなくって。
美海　ああ、ねえ。それはあたしも。
琴水　ていうか、言うて、そんな久しぶりじゃないですけどね。
美海　まあね・まあね。えー、でも結構じゃない？　いつ以来？
琴水　あれじゃないすかだから、あーの、ひとみんと飲みに行かせてもらって、［こないだ、
美海　［ああ、そっかそっか。え、あれってでも、年末？　［とかだったっけ？
琴水　［そうっす・そうっす。二人で忘年会だー、つって行きましたんで。だからまあ、半年ぐらい？
美海　そっかそっか／やあ、スズも久しぶりだねー。
涼花　お久しぶりです。ホント。
美海　めっちゃいいじゃんね、これ。
涼花　ありがとうございます。大丈夫なんですか、なんか、お仕事がどうとかって？
美海　ああ、いやいや、全然、大丈夫。もう、ちょっとね。なんか、アカンやつがいてねー、職場に。ね？

▼音響：曲ｲﾝ

明日歌　はい。
美海　まあ、それでそいつの尻拭いっていうか？　まあ、そんな感じで。いったん、ケリはついたから。
涼花　ああ、そうなんですか。じゃあ、よかったですね。
美海　ねえ。なんかごめんね、バタバタさせちゃって。
琴水　いえいえ、そんなそんな。

明日歌、みんなの様子を伺いつつ、

明日歌　それじゃあ、そろそろ――。

明日歌、涼花、琴水も退場。

▼琴水　やあ、なんか緊張しちゃいますねえ。
▼美海　ええ？　そう？

▼琴水　「はい。
▼涼花　「まったくしてなさそうなんだけど？
▼琴水　いやいや、してますって。おしっこ漏らしそうですもん、ちょっと。
▼涼花　最低なんだけどホント。

場面転換。

三場　披露宴のあとで

再び、控室。
美海、明日歌がいる。
傍らにはふたりのもらったであろう引き出物の手提げ袋がある。

【1】○　美海・明日歌

美海　なんか悪かったねえ、今日は。
明日歌　え？　何がですか？
美海　やあ、なんか明日歌にいろいろと気を遣わせちゃってさ。
明日歌　いやいや、全然。
美海　亜矢にはあとで、ちゃんと謝っておくから。
明日歌　それはいいんですけどね。え、大丈夫なんですか、美海さん？
美海　え？　あたしは全然。ごめんね、ホントに。
明日歌　いえいえいえ。

一拍。

美海　でも、良かったよねホント。いい披露宴になって安心した。
明日歌　ああ、ですね。それは。
美海　まあ、強いて言えばちょっと料理ケチったかな、っていうのはあったけど＝
明日歌　＝え、え、そうなんですか？
美海　★ま・ま・ま、ちょっとだけね＝
明日歌　＝あたし全然、そんなこと思わなかったですけど、
美海　まあ・まあ、でもよかったよ。

美海、携帯端末をチェックして。

美海　――嘘でしょ。えー。
明日歌　どうかしました？
美海　えー、なんかやっぱ別の人が行くからいいって。
明日歌　ああ、そうなんですか？
美海　ふー。ああ、そう。へー。

一拍。

美海　だったらこんな、ねえ？　慌てなくて良かったのに。
明日歌　ホントですよね。
美海　うわー。なんかこれで二次会出るのも微妙じゃない？
明日歌　いや、そんなことないですって。
美海　あんだけ言っといて結局出んのかーい、みたいな？
明日歌　いいと思いますよ、全然！　というか、良かったじゃないですか。
美海　うあー、微妙ー／ええ？　明日歌は戻ってていいよ・じゃあ。あたしもすぐ戻るからさ。
明日歌　あー、はい。わかりました。
美海　ホントごめんね。なんか明日歌まで巻き込んじゃって、付き合ってもらっちゃって、
明日歌　いやいやいや、あたしはそんな／美海さんが大変なんじゃないですか。
美海　いや、全然。全然、気にしないであたしは。ホント平気だから。ホントごめんね。
明日歌　大丈夫ですって。というかあたしも抜けられてちょっとホッとしましたし。
美海　ああ、そうなの？
明日歌　はい。

一拍。

明日歌　ああ、いや、これは全然、今日の式が、って意味じゃないんですけど＝
美海　＝うん。
明日歌　なんていうか、ああいう、賑やかな感じのがあんま得意じゃないんで。
美海　ああ、そう？
明日歌　はい。

一拍。

美海　なんか意外だね。
明日歌　そうですか？
美海　うん。いつもはパーッと元気にしてるから。
明日歌　そんなことないですよ。そう見えてるだけじゃないですか。
美海　だから、そういうのもコミでね。楽しんでるのかと思った。

一拍。

明日歌　んー、なんなんでしょうね？（笑）＝
美海　なになに（笑）
明日歌　＝ちょっとあたしもほっとしちゃった、っていうのもあるんですかね？　いまいちこう、パーっとなれなくて、今日。
美海　まあ、確かにほっとしたってのはあるね。

明日歌　はい。――あ、全然そんな、うれしくないとかってことはないんですけどね、うれしいんですけど、全然。
美海　うん。そう、ね。
明日歌　なんかあたし、結婚式ってこう、パーッと？　打ち上げ花火みたいな気持ちになるものかと思ってたんですけど、全然、そういう気持ちにはならなくって。
美海　（冗談で）やっぱ料理がね――。
明日歌　全然・全然！（笑）　あたしは全然おいしかったですし。

一拍。

美海　まあ、でも、パーッとはしてなかったけどね、確かに。こう、線香花火みたいな感じで？　なかなか趣があったよね。今日は。
明日歌　えー、それじゃなんか悪くいってるみたいじゃないですか、
美海　違うよ。悪くは言ってないじゃん別に＝
明日歌　＝そうですか？　だってなんか、
美海　え、え、じゃあ、むしろ、どんな感じなの、明日歌的には？　打上げ花火みたいじゃなくってえ、
明日歌　なくってえ、だから、えーと、まあ、なんか。
美海　うん。
明日歌　――スイートポテトみたいな？
美海　ああ。――こう、しっとりしてね？　スイートポテト。
明日歌　そうです・そうです。
美海　え、花火どこいった？
明日歌　いやいや、どこもいってないんですけど、なんか、そういう感じかなあ、って。
美海　まあ、まあ、そりゃあ、ね。明日歌がそう思うんならそうなんだろうけど。
明日歌　ああ、はい。そんな感じです。

一拍。

美海　え、じゃあ、全然急がないでいいじゃんね？　ちょっとあるもんね、二次会まで。
明日歌　そう、ですね。はい。

一拍。

美海　ああ、そうだそうだ。そんじゃ、さっきの話。あのホラ、
明日歌　さっきの？
美海　留学の。

明日歌　ああ――。いや、大丈夫ですよ、その話は全然。ごめんなさいなんか、こんな時にヘンな相談して。

美海　まあ、まあ、難しい話だろうからね。

一拍。

美海　んー、なんか、明日歌の言ってたこともわかんなくはないんだけどね、さっきのあの、勝手なんじゃないか、っていうのもさ。

明日歌　はい。

美海　でも、なんだろう。――ヨウちゃんのことはだって、それはそれじゃん。明日歌の留学とはぜんぜん関係ないことだよ。って、そんなの絶対、亜矢だってわかってることだしさ。

明日歌　そうなんですけどね。そうなんですけど。

美海　うん。だから、今、明日歌が留学諦めて、ってことになるんだとしたらさ、――誰も喜ばないよ、っていうね。明日歌だってわかるでしょ？

明日歌　うーん。いや、わかんないですけど、あたしは。もう、なんか・なんにもわかんなくなっちゃってて。

一拍。

明日歌　いやー、でもホント、あたしばっかりいつも面倒見てもらう側で――。美海さんにも亜矢ちゃんにもいろいろ面倒見てもらってて＝

美海　まあ、それはね。

明日歌　＝歳だってそんな変わんないじゃないですか？　なのになんか、みんなホントしっかりしてるのに、あたしだけ子供だなあって思っちゃって。

美海　まあ、子供だからねえ――。

一拍。

【2】○　どうしてもやりたいこと

美海　って、ホラ。まだ若いんだしね。っていう意味だけどさ。違う別に、だからダメじゃんとか、そういうことじゃなくてね、

明日歌　いや、はい。大丈夫です、それは。

美海　まあさー。自分で決めて、自分でわがままするわけだからさ、明日歌は。うん。そんだけわかってんだったらそれでいいんじゃないの？

一拍。

美海　フフ。そんなにさ、「これがやりたい！」ってことなんか見つからない人も多いんだよ。
明日歌　そうですか？
美海　そうそう。だから明日歌はすごいんだよ＝
明日歌　＝すごくないですよ。――みんなだってそりゃ、やりたいことがいっぱいあって、それでもいろんなことを考えて抑えたりして、それでやってってるんじゃないですか？
美海　それがそうでも無いんだなあ。
明日歌　そうですか？
美海　うん。

一拍。

美海　まあ、たとえばそうだったとしてもさ、仮にね、仮に＝
明日歌　はい。
美海　＝みんながやりたいことを持ってて、それを抑えているんだとしてさ、別に明日歌がそれで諦めますってことにはならないでしょ？
明日歌　いや、んー。わかんないですけど――。
美海　いいんだよ、だから。今はやりたいことやんなって。
明日歌　え、じゃあ、美海さんも無かったんですか？　特にやりたいこと。
美海　うーん。どうだろね。

一拍。

美海　まあ、全然無かったといえばウソになるのかもしれないけど――そんな、特には。
明日歌　ホントですか？
美海　ホントホント。だって別に。ねえ。そんなどうしてもやりたいことあったらやってるでしょ？
明日歌　いや、わかんないですけど――。え、え、じゃあ、ずっとこれからも今の会社で働くんですか？
美海　まあ、ね。
明日歌　いいんですか、それで？

一拍。

美海　ん？　なに、どういう意味？
明日歌　ああ、いや、全然いいと思うんですけどね、好きなことやるのが一番いいと思うんで、好きならそれでいいと思うんですけど、
美海　ああ――。飲食がそんな、好きになるような仕事とは思えない？
明日歌　★いやいやいや、別にそういう意味じゃないんですけど。

美海　え、じゃあ、どういう意味なの（笑）

間。

明日歌　あ、なんか、すみません。失礼な言い方になっゃちゃって、

美海　や、別にいいんだけどね。フフ。まあ、そう思うかもね、そりゃ。

明日歌　いやいやいや！　それはホントすみません。そういうなんか、誤解させちゃってたらあれなんですけど、［そういう意味じゃなくって、

美海　［違う違う違う、え、え、誤解ではないじゃん？＝

明日歌　＝いや、違うんですホントに＝

美海　＝（引いて）ええ。そう言われるとこっちもなんか、終わりにできなくなっちゃうんだけど／え、だってまあ、少なくとも明日歌にとってはね、飲食はそんな一生やるような仕事じゃない、っていう、そういう［感覚で言ってるわけでしょ？

明日歌　［違います・違います、違いますホントに。

美海　★違くないじゃん、違くないから。いや、別にいいしそれは。いろいろ価値観はあるから。

間。

美海　え、じゃあさ・じゃあさ、明日歌は一生飲食で働くっていうことでいいと思ってる？　アルバイトから正社員に採用しますよー、っていったら、なる？　正社員？

明日歌　いや、それはまた別の話じゃないですか、

美海　★え、なるの？　なんないの？

明日歌　いや、まあ、だから、

美海　うん。

明日歌　――え、違う話じゃないですか、それは？

美海　★いやいやいや、ならないんじゃん。そうでしょ、そういうことじゃない＝

明日歌　＝や、そういう意味じゃなくて、

美海　いいから・いいから。全然いいから。個人の自由だからね、いろいろなに考えてもさ。

一拍。

美海　まあ、若いからね。しょうがないよ。そういう、なんか。うん。

間。

明日歌　え、なにがですか？

美海　なんでもない。ごめんごめん。

明日歌　　え、違うっていってるじゃないですか？　や・なんかそういう、――若い若いって、まあ、若いですけど――。でも、なんかそれでなんでも片付けられちゃったら、なんも言えないじゃないですか？

美海　　いや、ごめんて、だから。［ごめんねって、

明日歌　　［いやいやいや、そういうのはだから、

二人　　――ええ？

一拍。

明日歌　　私だってだから、そりゃ視野は狭いのかも知れないですけど、でも、私なりにちゃんと考えてるんですよ。

美海　　うんうんうん。

明日歌　　だって、しょうがないじゃないですか、若いんですよ。若いんです。そんなだって、一気には歳とれないわけですし、

美海　　うんうんうん。それがもう結構なアレなんだけどね、

明日歌　　全然そういう、いろんな価値観の人がいるっていうことは分かってますし、あたしも。でも、わかんないんですよ。

美海　　うんうん。え、な、なにが？

明日歌　　だってそんな、やりたいこと無いってことは無いじゃないですか？＝

美海　　いやいや、だからね、

明日歌　　＝みんないろいろ夢があって／別にそれが全員叶うとかそんな甘いこと考えてないですけどね／でも、そういうことって、――え、悪いことなんですか？　［そんなに悪いことなんですか？

美海　　［わかったわかった。全然そんな、言ってないんだけどね悪いとか、あれ？　いや、だから、いいと思うよ、全然。明日歌の立場っていうか、夢？　も、全然、わかんないわけじゃないし。

明日歌　　あー、もう、ホントすみません。

一拍。

明日歌　　最悪だ、あたし。ごめんなさい、全然こんな事言うつもりじゃなかったのに、

美海　　いやいやいや、いいんだけどね。いいっていってるでしょ、だから、

一拍。

美海　　あー、なんだろ。なんだろうな。違うんだよ、あのー、違うの。あのね、いや、これは別に全然・聞き流してくれていいんだけどね――

一拍。

美海　あたし的には、――なんていうんだろうな、結構その、まあ、明日歌が社員とかになるんだったらそれはそれかなァ、じゃないけどさ、そういう、うーん、なに、そういう風なことも考えてたことはあったから。

明日歌、立ち上がる。

美海　いや、いいと思うんだよ、全然。明日歌には明日歌の、なに、夢？　があって全然いいと思うし。それは応援したいと思ってるし、ホントに。ホントだよ、それは／でしょ？

明日歌　はい。それは――。

【3】○　美海、明日歌、琴水

琴水、登場。

琴水　ああ、いたいた。よかったよかった。

美海　あー、なに、どうかした？

琴水　ああ、や、まあ、どうってわけじゃないんですけどね。美海さん、行けないんですよね、二次会？　だからちょっとご挨拶だけでも、と思って――

美海　ああ、いや、行けることになったかな。

琴水　あ、そうなんですか？

美海　そうなの・そうなの。なんか、ごめんね。バタバタしちゃってて。

琴水　いやいや、全然いいんですけどね。ああ、そうなんですね。行けるんですね。それは、よかったですね。

美海　そうそうそう。

【4】○　四人で

涼花、登場。

美海　（明日歌に）あたしも行っちゃって平気かな？　さっき抜けるって言っちゃったのに。

明日歌　やあ、全然、美海さん来たほうが絶対喜びますって。

☆琴水　（涼花に）行けるんですって。

涼花　ああ。

☆美海　ねえ。どうせなら行っとくかなー。

明日歌　はい、全然。

涼花　あ、いらっしゃるんですか？　美海さん。

美海　え、ああ。行く行く。ごめんなんかワタワタしちゃってて。
涼花　ああ、そうですか。なんかお仕事が入ったとかって聞いたから――。
美海　ねえ、どうかしてるよね。こんな日に呼び出されるなんてブラックにも程があるっていうか、いやでも、もう大丈夫だから。
涼花　そうですか。――ああ、じゃあ、なんか、ねえ。
美海　うん。
涼花　良かったですね。ホント。
美海　ねえ。良かった良かった。
涼花　フフ。

涼花、座る。
間。

美海　んん？
涼花　いや、なんかちょっと――すごいなって思って。
美海　ああ、うん、ごめんね。なんか勝手なこといっちゃって。
涼花　いや、いいんですけど別に、あたしは。
美海　うん。なんかでも、――よくなさそうな感じじゃない？
涼花　ああ、まあ、そうですよね――。すみません。
美海　――いえいえ。

一拍。

美海　って、どうしたのなんか、ちょっと涼花ヘンじゃない今日？
涼花　そうですか？　え、ヘンですかね？
美海　うん。なんか。いや、勘違いかもしれないんだけど。
涼花　★いや、ヘンだと思ったならヘンなんじゃないですか、やっぱ。
美海　ああ、そうなの？

一拍。

涼花　うーん。難しいですね。
美海　んん、なになに？
琴水　いや、なんか今日はやめません？　またなんか別の機会にでも、
美海　え、なにがなにが？
琴水　や、なんていうか、ちょっとあれなんですけど、スズさんがちょっと、
涼花　ああ、ちょっとじゃあ、いいですかお話しても？
美海　いいよ・いいよ。なに？

琴水　スズさん。
涼花　大丈夫・大丈夫。

一拍。

涼花　んー、いや、なんだろう――。どっから話せばいいのかすごい難しいんですけど――。
美海　うん。なに？
涼花　ああ、あの、なんか勘違いしてたらやだなって思うから最初に聞いときたいんですけど、
　え、なんか亜矢さんのその、お子さんがいるじゃないですか？
美海　ヨウちゃん？　ああ、うん。え、ヨウちゃんがなに？
涼花　いや、うーん。なんだろう。
琴水　やめときましょう、今は。またホラ、別の機会に。
涼花　いや、ごめんね、ホント。あたしそんな、んー。別の機会があるかわかんないし＝
琴水　＝まあ、そうですけど。
涼花　（美海に）違うんですよ、あのー。いや、別にあたしがそんな、何か言う権利があるって
　わけじゃないんですけど、いや、権利とかそういうことじゃないのかもしれないですけど、いや、
　――うーん。ごめんなさい、なんか。ちょっとうまく言えそうもないんでアレなんですけど――
美海　ああ、いや、なるほどね。――なんか、大体、何言いたいかわかったけど、
涼花　よく来れましたよね、今日。

間。

美海　どうして？
涼花　だって、美海さんてあれですよね。うーん。いや、あたしわかんないんですよ、なんで美
　海さんがそんなこと言ったのかっていうのも全然わかんないですし、いや、じゃあ、何をどう言
　えば良かったとか、そういうのがあって言ってるわけじゃないんですけど、
美海　ヨウちゃんのことね。それでなんかあの、――うーん。フフ。確かに。なんていったらい
　いんだろうね。
涼花　はい。

一拍。

琴水　や、まあ、今日のところは、ね。そういうちょっと難しい話はまたにして、っていう。も
　う、そういう感じにしません？

一拍。

美海、身振りで琴水を制してのち、

美海　ごめん・ちょっとあんまり言葉を選んでると何も話せなくなっちゃうからさ、ちょっとひどい言い方になっちゃうのかもしれないけどさ――

涼花　はい。いや、全然いいです。そういうのは。

美海　あれだよね？　あたしがヨウちゃんのことはなんだ、まあ、なんていうか諦めた方がいいんじゃないの、っていうことをさ、そういう意味のことを亜矢にいったのが、っていうことだよね？

涼花　言ったんですか？　ホントに。

間。

美海　うん。言った。それはなんか言っちゃったね。

涼花　え、なんでそんなこと言ったんですか？

間。

美海　うーん。それをなに、あたしがスズに説明しないといけないわけ？

涼花　★いや、別にそんな、言いたくないんだったら言わないでいいんですけど、全然。

美海　そうじゃない・そうじゃないから。

涼花　いや、いいです・いいです。だったら全然、あたしもそんなどうしても聞きたいとかじゃないですから＝

美海　聞いてよ、ちょっと、

涼花　＝それにそんな、まあ、そうですよね。こんなこと聞く権利ないですし、あたしに。

美海　いや、権利とかそういうことじゃないでしょ別に。

琴水　いやいや、だから、いいんじゃないですか、別に？　いろいろあったんですよ。みんな。そりゃだって、いろいろありますよ、それは。

一拍。

琴水　いや、あたしもなんか、今日初めて会ったんで、お子さんとは。だから全然、想像できてなかったな、っていうか、甘く考えてたんだな、って今、若干ビビってるんですけど、

美海　んー。まあ、ね。それは、

琴水　――すごいって思いましたもん。こんなだって、できないですよ。結婚式とかもそうですし、やあ、なんかあの状況でそういう、――うーん、なんだ、連れてこようって思えたこともそうですし、や、そもそもなんか、すごいな、って。やられちゃいましたもん、亜矢さんに。

一拍。

美海　そうね・そうね。いや、それはわかるんだけどね、琴水の気持ちも、

琴水　はい。だから今日はそんな、
美海　★いや、でもさ。（涼花に）スズとしては、このまんま、ねえ。何も言わないのも気持ち悪いよね。――っていうことでしょ？
涼花　んー。まあ、すっきりとはいかないですけどそりゃ＝
美海　ねえ。
涼花　＝でも、あたしも別に美海さんが言いたくない話をわざわざ聞きたい出したいとか・［そういうことではないですし、
美海　［違う・違う・違う。そんな風に思ってないから、別にあたしも。

間。

【5】○　どう話したらいいのだろう

美海　やー、そりゃひどいよねあたしも。よく来られましたね、っていうのはホントにあたしも思うもん。だって、ねえ。もう、それはホントに亜矢のおかげっていうか、あの子がいろいろとわかってくれたっていうか、許してくれたからだと思うんだけどね、
涼花　まあ、亜矢さんの気がしれないっていう思いはありますけどね、正直あたしは。
美海　いや、そうだよね＝
涼花　＝すみません、なんか、
美海　★全然、全然。謝らないで。だって、そう。そうなんだよ。だけど、うーん。

一拍。

美海　あー、難しいね。やっぱり。

一拍。

美海　あたしもさあ、わかんなくなっちゃってホントに。

一拍。

美海　当時はもう、全然わかんなかったよ。別に今だってよくわかってないし、じゃあ、今、同じことが起こったらなんかもうちょっとは別のことができるのか、っていったらそれは全然わかんないんだけどね。

一拍。

美海　まあ、確かなのはだから、ヨウちゃんが生まれてきてくれてそれは本当によかったな、っていうことかな。それは本当に。んー。まあ、ひどい話に聞こえるかもしれないけどさ、あたしは、本当にそう思えたのはつい最近のことだから。

一拍。

美海　どっから話せばいいんだろうね。
涼花　いや、あたしがまず話せってこともありますよね。すみませんなんか。
美海　★いやいや、そういう意味じゃないんだけどね、［どっから話したらいいのか、ホントに。
涼花　［だから、だから、あれですよね、だからあの、――亜矢さんのお子さんがそういう、うーん。あんまり元気じゃない、感じで生まれてくることになって、
美海　うん。
涼花　それでまあ、亜矢さんが大変なときにずっと美海さんがそばにいてあげて。そうそう。そうですよね――。なんていうか、本当に亜矢さんは美海さんを頼りにしてたと思うし。いや、これは嫌味とかじゃなくて、ホントにそうだったと思うし、いや、まあ、もちろん今でもそうだと思うんですけどね。

一拍。

涼花　それでだから、まあ、それこそホントに大変な時期に美海さんがずっと、なんですかその、姉妹じゃないですけど、そういう、ホントにそういう感じで付き添ってあげてて、支えてあげてて、っていう話はもう、ずっとあたしも聞いてましたんで。
美海　いや、そんな別に。なんもできてないけどね、［そんな。
涼花　［だけど、だけどまあ、頼りにされてたことは確かなわけで。そりゃまあ、そうですよ。美海さんは頼りになりますから、ホント、そういう時は。だからあたしだって、いっつも悩んでるときとかには美海さんに助けてもらってたし、そういうホント、うん。そういう人だから、美海さんは。

間。

涼花　ああ、なんかもうちょっとぶっちゃけて話しますけど＝
美海　＝うんうんうん。
涼花　違うんですよ、あたし、わかんなくなっちゃってて。もう、いや、こんなの誰だって簡単に答えとか出るわけないし、いや、簡単に答えなんか出しちゃいけないことだと思うんですけど、なんかあたし、怒ってたんですよ。なんていうか、――美海さんにそういうことといってほしくなかったなって。いや、まあ、ぜんぜん、こんなの勝手なあたしの思いなんですけどね、超、勝手な思い込みなんですけど、それでもあたし、美海さんにはそういうことといって欲しくなかったなって、それですごい怒っちゃってて。だって、美海さんてあれですよね、なんていうか、延命は

しないほうがいいっていうか、もう、そうなったらそうなったじゃん、ていう意味のことを言ったわけですよね、亜矢さんに？

美海　うーん、いや――。

一拍。

美海　怖いねなんか。そういう話がまわってるんだ。

涼花　いや、違うんですよ、それは。

美海　★違くないじゃん。え、違くないでしょ、それは。

涼花　いや、すみません、それは違うんですよ、そういう、だから、そういう話が回ってるとかじゃなくて＝

美海　いや、だってそもそもさ、

涼花　＝違うんです、そうじゃなくて、

美海　回ってなかったら全然、スズの耳とかに入るわけないし

涼花　★そうじゃなくてだから、いや、これはあたし、亜矢さんから聞いたんです、直接。

間。

美海　亜矢から？

涼花　そうなんです。だから別に、そういう話がまわってるとかじゃなくて、別にそんな、そういう噂話とかでっていう、軽い話でいってるわけじゃなくてあたしも――。でも、違いますよ、亜矢さんも別に悪気があって言ったわけじゃなくて、きっとなんていうか、誰かに言わないと持たない感じだったんじゃないですかね、そのとき。あたしが聞いたとき。

一拍。

涼花　いや、そんな話しないですよ、亜矢さんは。だからもう、ほとんど唯一って感じで多分、あたしも聞いちゃったんですけど、ホントたまたま、――っていったらヘンに聞こえるかもしれないですけど、なんか、タイミングで。その時は亜矢さんもすごいショックを受けてたから、いや、亜矢さんもなんだかんだで、美海さんのことをすっごい頼りにしてたから、なんていうか、だから美海さんにそういう、うーん。なんていうか、うーん。美海さんにそういうことを言われた、っていうのがすっごいショックだったみたいで。

美海　そうだね。それは。うん。ホントに。

涼花　だからその、なんかそのときの印象であたし怒っちゃって。だって、亜矢さん泣いてたから――。

間。

涼花　なんでそういうこと言っちゃったんでろう、ってなっちゃって、あたしも。――いやいや
いや、なにいってんだろうあたし。いや、全然・そんな、お二人の関係とかはもうそんな、あた
しなんかがなんか言えるような浅い関係じゃないのはわかってるつもりなんですけど、それでも
なんか、えー、ってなっちゃって。なんでー、って。それでだから、だから、そういう、んー。
美海　許せなかったんだよね。

間。

美海　ごめんごめん、なんかいろいろしゃべらせちゃったみたいになって、
涼花　いえいえ、こっちこそそんな。なにいってんだかって［感じなんですけど。
美海　［違うの違うの、それはホントにね。あたしも悪かったし。うーん。

間。

【6】○　涼花はちゃんとしたか

美海　ありがとね、なんか。今日は来てくれて。
涼花　――
美海　って、どの立場っていってんのかだけど。別に亜矢の代わりにいったとかそんなつもりは
全然ないんだけどね。いや、あたしがいたら来にくかったでしょ、そしたら？　会いたくなかっ
ただろうしね、そんなやつと。
涼花　いや、会いたかったです。
美海　ああ、そう？
涼花　はい。会いたかったです、それは本当に。
琴水　ですよね？　（美海に）スズさんはだって、それはそうですよ普通に。
涼花　これはもう、信じてもらうしかないんですけど。
美海　いやいや、わかったわかった。ありがとね。

間。

美海　ふふ。なんかちゃんとしたねえ、スズも。
涼花　なにがですか。
美海　やあ、最初に会った頃はもうすぐ泣いちゃって全然、ねえ。あんま言葉になんない子だっ
たから。――踊りのセンスだけはすっごいあったから、部には残ってほしかったけど、もう、そ
れでもやっていけんのかなあ？　って心配してたもん、上の代はみんな。
琴水　ええ、そうだったんですか。［スズさんが。
美海　［ホントホント、ぜんぜん、今みたいな感じじゃなかったから、
琴水　へー。

涼花　え、なんですか、急に。
美海　いや、なんかふっと思い出して。ハハ。あたしも嬉しかったんだよね。なんていうの、こんな踊れる子が下に入って来てさ、なんかずいぶん、ね。仲良くもさせてもらったし。
涼花　いやあれは、あたしが勝手にくっついて回ってただけですけど、
琴水　やあ、でも、仲良かったと思いますよ。下から見てても、全然。
美海　あの頃はなんか、ね。んー。ねえ？（笑）　――なんか、わかんないけど。誰かを好きになりたい年頃なのかもね。ああいう時期って。

一拍。

美海　そうそうそう。言ったんだよ、あたしは――。延命しないほうがいいってことは何回も言ったし、気管切開の時も言ったし、胃ろうをどうするか、ってなった時もあたしはそういうことを言ったよね。その都度。――まあ、こんな言い方はちょっと極端だとは思うけどさ、いや、あくまであたしの心の中の話だけどまあ、そういうことを言うたびに、あたしはヨウちゃんを殺してたのかもしれないなって＝
涼花　＝いや、そんなこと言ってないですよ。［そんなこと
美海　［まあね、そりゃそうだよ。「生かさない」っていうことと、「殺す」っていうのはもちろん、全然・別のことだけどね。それはもう、ほとんどまったく関係ないってぐらい別のことだってわかってたつもりだったけどね。それでも、そういう意識はあったんじゃないかな、あたしには。きっと、亜矢にも。

間。

美海　まあ、だから、うーん。そういうことに覚悟するとか、しないとか、そんなのあるのかわかんないけど、でも、あたしなりに覚悟みたいなものを持っているつもりで、それで、そういうことを言った。

一拍。

美海　そりゃねえ――きれいごとは言えるけどさ。そういうことを言った自分に対してきれいなことも言えるよ？　だってねえ、そんだけ重い障害を持った子がいたら、じゃあ亜矢の人生はどうなるの？　って。――そりゃあ、子供を生むんだからさ、それは、それまでの生活とは全然暮らしが変わるってことだと思うよ。それこそ、最初の何年かは自分の人生全部・捧げるぐらいのつもりじゃなきゃ子供なんか育てられるわけないし。――ってそういうことはさあ、お母さんだったら誰でもやってる普通のことなのかもしれないってあたしも思った。そうそう、琴水だって、お子さんいるわけだしねえ。
琴水　いやいや、あたしはただのダメ親なんで、そんな意識高くないですけど――。

一拍。

美海　だからなんていうの、――まあ、程度の差はあってもね。子供を育てるって自分の人生を捧げるってことに決まってるじゃん。ってそういう風にも思うよ。でも、その頃のあたしにはさ、それよりもっとずっと大変なことに思えたのね、亜矢の場合は。そういう、軽くない障害を持った子を育てていくっていうことはさ、やっぱりそういう、健常の子を育てていくっていうことはちょっと違うことなんじゃないかってあたしには思えてたから。だから、――亜矢の人生はどうなるの？　って。

間。

美海　いや、はっきりいってあたしは全然・差別してるんだと思う。やっぱり普通に元気に生まれてくる方がよかったじゃん、って絶対心のどっかでは思ってるもん。だからきっと、お母さんになったらみんな、ある程度自分の人生を捧げるっていうことはね、それはそれで「いい」って思ってたくせにさ、当たり前じゃんとか思ってたくせに・なのになんか、障害があってさ、そういう、何年経っても立ち上がることもない、しゃべることもない、目も見えない、耳も聞こえない、ってなった時にさ、

間。

美海　――その子を育てることで亜矢の人生がどんどん過ぎていっていいの？　って。それじゃ良くないじゃん、って思ってた。思ってたよ。だから延命しないでいいんだよ、って。いろいろ呼吸器つけたりとか、そういう医療に頼って生かしていくっていうのは、「自然」じゃないよ、なんていって、そういうことを言って、それでだから、うーん。

一拍。

美海　そういうのが伝わっちゃってたんだよね、全部、亜矢には。だからショックだったんだろうと思うし、あたしがそういう、なんか自分ではちゃっかり亜矢のためとかなんとか自分に言い訳をしながらさ、全然、ひとつの命を認めてあげてないんだなっていうことが、もう全部亜矢に伝わっちゃってたんだよね。

明日歌　――感謝してましたよ。

一拍。

明日歌　亜矢ちゃんは、美海さんにいちばん感謝してました。

美海　うん。いや、まあ、優しいから亜矢は。

明日歌　優しいからとかじゃなくて。――亜矢ちゃんはそういう、――そういうことじゃなくて、ホントに、美海さんにホントに、――だって、美海さんは自分のこととして一緒に考えてくれたからって、いっつもそういってますよ。

間。

【7】○　耐えられる限界

琴水　というか、めっちゃ重い話っすね。

間。

美海　――え、［や、そうだけど。

涼花　［琴水はホントさあ。

琴水　違いますよだから、いや、違くないですかね、なんていうか、こういう雰囲気に耐えられる限界が来たっていうか、そろそろ・もう、

涼花　いや、がんばれよ。

琴水　すみません、ホント。いや、でもなんか、重い話なんで重く話すのやめません？

美海　ええ？

琴水　いや、違うんですよあの、これはまあ、離婚した時とかも前の旦那にすっげえ怒られたんですけど、――どうせ重い話だったら軽く話したって重い話じゃないですか？　だったらもっとこう、ね。笑いとかある感じでいけないのかなあって。

美海　怒るわ、そりゃ。

琴水　いや、嫌なんですよこういう雰囲気って。だってまあ、うーん。――別にあたしら全然関係ないじゃないですか？　だって。本当は。

一拍。

琴水　いや、あらかじめいっときますけど、ちょっと今、冷静ではないですけどね。正直まあ、今日までそんな、全然甘く考えてた側の人間なんで、お子さんのことは。だから、あー、そっかあ、ていうか、まあ、かなり今、喰らってる状態ではあるわけなんですけどね。

一拍。

琴水　や、もちろん、亜矢さんのそのー、お子さんの話は聞いてましたしね、わかってはいたんですよ、あたしも、これで。――まあ、でも、全然あたしはお見舞いとか行ってなくて、や、まあ、行けましたよ。全然行けましたけど、行ってなくて。ってだって、そんなの放っておいてほしいじゃないですか？　――と思いません？

涼花　うーん、いや、
琴水　ってあたしは思っちゃったから。いや、そんな、スズさんがお見舞い行ったこと責めてるとかじゃないですよ。美海さんとかはまあ、全然あたしとかとは別格だと思うんで、亜矢さんにとっては。だからいろいろ、してあげられることもあったんだろうな、って思うんで、それはホント、偉いな、すごいな、っていうそれだけなんですけど、
美海　フフフ。うん。
琴水　でも、あたしだったら全然、放って置いて欲しいし、関係ない人には関係ない感じでいてほしいじゃないですか？　嫌なんですよ、なんか。だってそんな別に、本当は関係無いくせに関係ある感じのフリとかされるのが一番ムカつくんで、ってだから思ったんですよそのー、なんですか、あたしが前の結婚ダメになっちゃった時も、なんていうか、そういう同情みたいな感じにしてくるやつがいたんでね、っていうか、居たんですよなんか。で、結果、そういうやつが一番腹立つなっていうか、放っとけよ、ていうね。そう、思っちゃったんですよ、そん時のあたしは。

間。

琴水　これは完全に間違えましたか、あたし？　空気が全然、読めてない。
美海　いや、いい、いい、別に。
涼花　琴水にそんなこと期待してないし、
琴水　そうっすか？　――（不思議そうに）ええ？　それはそれでちょっと腑に落ちないんですけど＝
涼花　いやいやいや、
琴水　＝え、だって、概ねあたしだって空気読んで生きてるじゃないですか？　ってかまあ、それはいいか。そうじゃなくて、あれ、なんでしたっけ？　あ、違う、だからそうですよ、あのー、ね。まあ、本当に大変な思いをするのはうちらじゃないじゃないですか？　――そう、そういうことですよ。ああ、美海さんはちょっと違うのかもしれないけど、そうはいったって、他人は他人なわけじゃないですか？　それはもう、え、そうじゃないですかだって？
美海　うん、まあ、それはそう思うよ、本当に＝
琴水　＝ですよね？　だから絶対、あんまなんていうか、深刻ぶる必要あります？　っていう＝
美海　＝いや、ぶってるわけじゃないけど、。
琴水　★ぶってるわけじゃないですよね、それは。違うんすよ、それはすみません。いや、そうじゃなくて、いや、もう、この話やめません？　っていう、ただ、それだけなんですけど。え？　もう、だって二次会行きましょうよ。あたしら、ダンスありますし？　今なんか、それが一番大事な気がするんですよね。あたし的に。

間。

琴水　パーッとみんなで飲んで、あはは―、とかいって笑って、そんでちょっと酔っ払ったりとかして？　別にあたしらにできることなんてせいぜいその程度なんじゃないですか？

間。

琴水　別にそれでいいんじゃないですか？　亜矢さんだって多分、それがいいと思ってるんじゃないですか？　じゃなかったらこんな式やんないでしょ、って思うんですよねー、あたしは。

間。

琴水　違いますかね？

間。

琴水　行きません？　二次会？

一拍。

明日歌　あたし、行きます。

琴水　おお、ねえ。

美海　そう、だね。それは確かに。

涼花　ちょっとまって・ちょっとまって、いや、全然あたしも行くよ、行くんだけどね、ちょっとまって。

一拍。

涼花　いや、あたし、ひとつだけどうしてもわかんないことがあって、

美海　うん。なに？

涼花　何ができるんですかね？　あの子、ヨウちゃんに、うちら。

間。

美海　いろいろあるけどね――。まあ、だから保険のこととかさ、行政支援のこととか調べてあげたりとか、手続きしてあげたりとか、

涼花　いや、そういう意味じゃなくて、

美海　うん。

涼花　――もっと、なんていうか、本質的なこととして。何か――。

間。

琴水　だから踊りっすよ。
涼花　いやいや、琴水はさ。
琴水　違いますよ、ホンキで、ホンキで。
涼花　ええ？
琴水　だからまあ、後輩の代の大会とか？　そういう、みんなが踊ってるのを会場で見てるぐらいのもんじゃないですか？　がんばれーっていって。

一拍。

涼花　うん。
美海　まあ、そうかもね。
琴水　そっすね。

間。

琴水　――てことで、じゃあ。

一拍。

明日歌　行きましょうか？

▼音響：曲in

琴水　行きましょう。そんでもう、ね。行って、ちゃんと踊ってきましょう。一発。
▼涼花　ヒゲつけて？
▼琴水　そうですそうです。ちゃんとひげもじゃになって。
▼美海　え、なに、なんのこと？
▼明日歌　や、なんかそういう踊りらしいですけど。
▼美海　えー？
▼琴水　あ、美海さんもつけます？　なんだったら美海さんの分もありますけど？

琴水、退場。少し空けて、明日歌、退場。

一拍。

美海、退場。

続いて、涼花、退場。

溶暗。

幕